

《今尾景年先生花鳥粉本》（関西大学図書館蔵）

村上 敬

今尾景年は、弘化二年（一八四五）、三井呉服店出入りの友禪師悉皆業を営む今尾猪助の三男として、京都衣棚通り二条上ルに生まれた。幼名は猪三郎。

安政二年（一八五五）の頃、父の勧めで浮世絵師・梅川東拳（生没年不詳）に画技を学び、同六年（一八五九）、東拳に勧められ、四条円山派の流れを汲む鈴木百年（文政十一年「一八二八」→明治二四年「一八九一」）の門に入った。そして、父の敬愛した、四条派の松村景文（安永八年「一七七九」→天保一四年「一八四三」）と、鈴木百年から一文字ずつもらい、この入門時から「景年」と号したとされる。

齡一四で百年に入門した景年は、家業の悉皆の上絵などを手伝いながら、絵師としての修業に励んだ。景年の作例中最も早い一五歳時の作品である《群猿図》（一八六〇年、図一）は、景年が初期の段階から高い技



図一 今尾景年《群猿図》

量を身につけていたことに加えて、森派の作品や粉本に学んでいたことを伝える。

つぎに、師の百年については、初め大西椿年（寛政四年「一七九二」→嘉永四年「一八五二」）に学んだが、独学を好み、中国絵画や文人画、円山派の写生図などを広く学び、諸派を折衷して、鈴木派と呼ばれる流派を成したことが知られる。結果として、源豊宗氏が「今日景年の流派的帰属に色々の見方があるのは、その師百年の流派的系統が明確でないことによるのであるが、景年の時代には、その画風そのものに流派的区別が消失していたのである。」と述べるように、時流も反映して、百年の画風の幅は広い。もっとも、一般には百年の作風について、文人画風が強いと評されている。

一方、弟子の景年が本来的に描きたかった絵画は、以下の景年自身の言葉が示すように、写生画であった。

そりや南畫は用筆も閑雅なり、氣韻も高超えはムいませうが、あの如く眞景に遠いのは、繪畫に於いて好む處でムいませうから、どうあつても描く氣になりませう、止を得ず、活計の爲に西村（總左衛門氏）のものやら、色々のものを描て暮しをたてました。明治十五年頃から、寫生家の畫がまた流行つてまいりまして、今日では少しはもてはやされることとなりました。^②

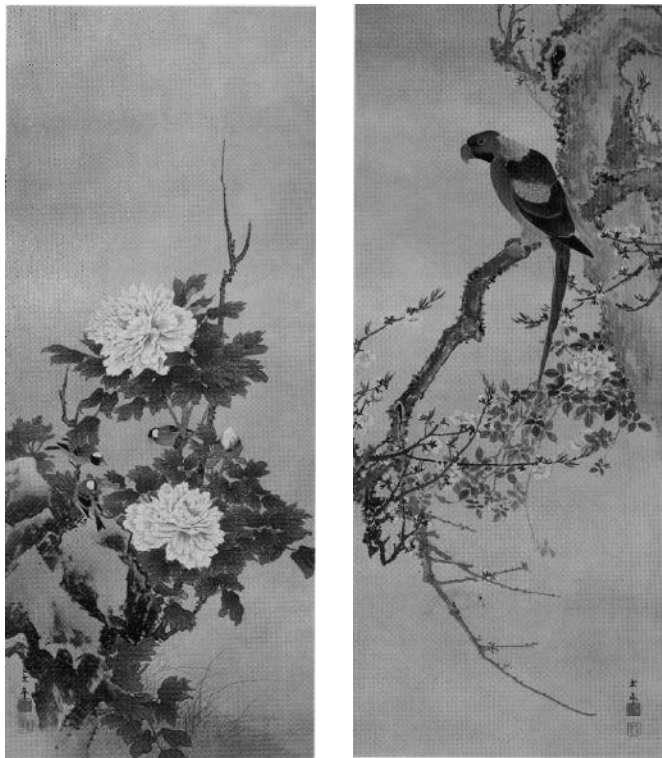
この景年の言葉が示すように、景年の代表例には、明確に沈南蘋風を示す《白桃鸚哥図・牡丹小禽図》（一九〇五年、京都国立近代美術館蔵、

図二)や、円山応挙の《松孔雀図屏風》(安永期)に学んだであろう《孔雀図》(図三)など、長崎派の写生の伝統を継ぐ作品が多い。くわえて、多くの写生図が残されており、景年の実証主義的な作画態度を知ることができる。

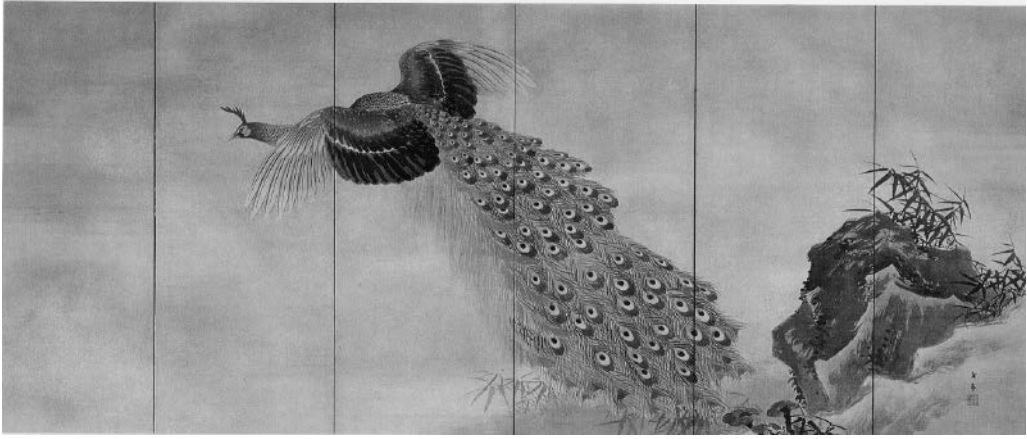
引用文中の「西村(總左衛門氏)のもの」とは、景年が明治一〇年(一八七七)頃から制作に着手し、十二代西村總左衛門(安政二年「一八五五」)と昭和一〇年「一九三五」の出資により、明治二四年(一八九一)から明治二五年(一八九二)にかけて出版された、多色刷木版画譜『景年花鳥画譜』(春夏秋冬全四冊)を指している。總左衛門は、京都の呉服商千切屋(現在の千總)の店主であり、天鷲絨友禅の新しい技術を考案し、国内外の博覧会に出品するとともに、景年をはじめ、岸竹堂(文政九年「一八二六」)と明治三〇年「一八九七」ら当時困窮を強いられていた日本画家に友禅の下絵を依頼するなど、進取の気性に富んだ人物であった。

『景年花鳥画譜』と同様、木版による花鳥画譜は、明治時代には他の絵師によっても制作されており、景年と同じく京の絵師では、幸野棟嶺(弘化元年「一八四四」)と明治二八年「一八九五」の花鳥画譜などが有名である。しかし、源氏が「他の花鳥画譜が、花卉と鳥をあしらい、組み合わせ、というような構図的関心がむしろ眼目であったのに比して、景年にあるのは、その形態、生態とともにその描写は精緻克明で、しかも芸術的表現を少しも弱めていない。」と述べるように、景年の花鳥画譜にあつては、精緻さを備えつつ、情趣をたたえた表現に溢れているのである。

さて、ここで紹介する《今尾景年先生花鳥粉本》(関西大学図書館所



図二 今尾景年《白桃鸚哥図・牡丹小禽図》



図三 今尾景年《孔雀図》

蔵)は、紙本墨画淡彩による、縦三〇〇×三三・五、横二三・〇センチメートルの花鳥図一二四枚から成る粉本集である。資料の状態は、全体に痛みがみられ、最後の第二四図「葉サクラ、イハツムギ」に至っては、下三分の一が裂けている。なお、その紙片は、大正時代の大阪市堂島尋常小学校で用いられた名簿用紙によって折り作られた封筒に収められている。本資料の制作年は不明であるが、後に述べるように、本資料の原画となった花鳥画譜が明治二十四年(一八九一)から明治二十五年(一八九二)にかけて刊行されたものであることを考えると、本資料は明治時代後期以降に制作されたものと推測される。

各図をみると、それぞれの花鳥図の余白に花と鳥の名前を書き入れているが、結び綴じの部分に巻き込まれてしまい、それらを判読できなくなっている第一三図のような例もあり、当初からこの形式で合綴することを目的として制作されたものではない可能性がある。表紙には、墨書で「今尾景年先生花鳥粉本 確泉 (百式十四枚)」(図一)とあり、今尾景年を慕う「確泉」なる人物が景年画を写したものと考えられる。

《今尾景年先生花鳥粉本》は、一二四枚から成るが、二枚続きの粉本を一点にまとめると、一一五点の花鳥図となる。そして、本資料の原画となった景年の作品は全て、先に述べた『景年花鳥画譜』の春之部から冬之部に登場する花鳥図である。ただ、『景年花鳥画譜』には、一三四点の花鳥図が収められており、すなわち《今尾景年先生花鳥粉本》には、一九点の花鳥図が何らかの理由で不足している。また、『景年花鳥画譜』が四季に基づく四分冊であるのに対し、『今尾景年先生花鳥粉本』の場合、一冊に纏められており、四季を厳密に区別しておらず、花鳥図の順序も

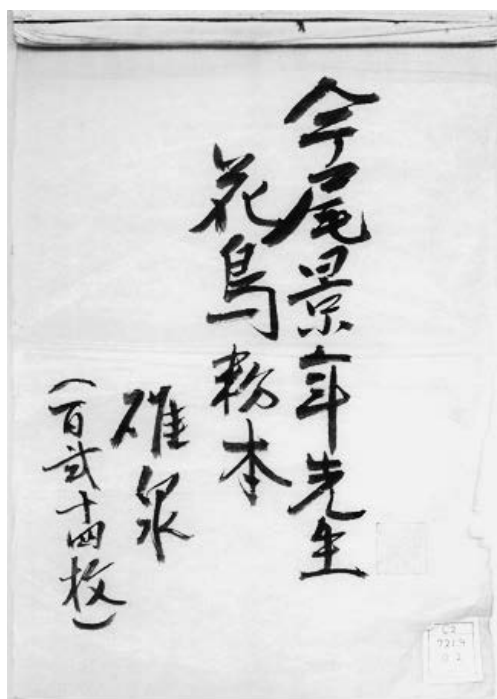
大きく乱れている。

《今尾景年先生花鳥粉本》の描写に着目すると、全体を通して速写によって描かれたものであり、細部の描写は大幅に簡略化され、『景年花鳥画譜』にみられる緻密さ、微妙さは失われている。この点、『景年花鳥画譜』（図六）に登場する草花の多くは、『景年写生帖』（図七）のなかに確認することができ、画稿（図一〇）の段階から、モチーフの精緻な観察がその表現に反映されているのである。また色彩も、『今尾景年先生花鳥粉本』においては、間に合わせの感が否めず、原画のもつ花鳥の生命感を伝えるような鮮やかさをもたない。例えば『景年花鳥画譜』のうち、「玉蘭、瑞紅鳥」（図九）は、応挙の《薔薇文鳥図》（相国寺蔵、一七八四年）を彷彿とさせるような、忠実な質感描写と繊細な色調をみることができ。しかし、『今尾景年先生花鳥粉本』においては、木蓮の枝、花蕊、萼、文鳥の腹部の羽毛について、原画では各々色分けが行われているのに対して、すべて茶色一色に置き換えられているのである。色の情報を補うための書き添えなどもなく、本粉本は後の制作の参考にするために描かれたのではないようである。

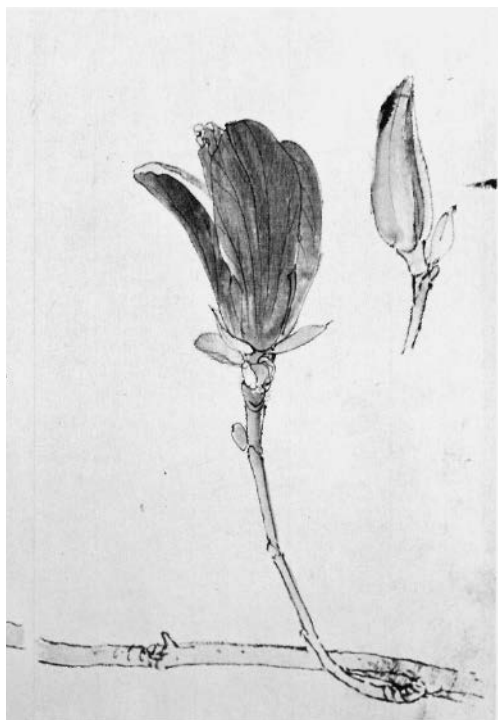
以上のことから、『今尾景年先生花鳥粉本』には、いくつかの制作の事情が想定されるが、原画となった版本『景年花鳥画譜』が当時人気を博していたことを鑑みると、習画として速写されたものが後に半ば無作為に綴じられたものと考えられる。《今尾景年先生花鳥粉本》は、『景年花鳥画譜』が習画帖として広く用いられていたことを伝える資料といえる。



図五 《今尾景年先生花鳥粉本》



図四 《今尾景年先生花鳥粉本》表紙



图七 《景年写生帖》



图六 『景年花鳥画譜』



图九 『景年花鳥画譜』



图八 《今尾景年先生花鳥粉本》



図一〇 『景年花鳥画譜』画稿

院、一九七〇、一～二六頁。

原田純彦「景年・桜谷と河合文林」『景年・桜谷と河合文林』井原市立田中美術館、一九九四年、四八～五五頁

【図版引用元】

図一、二、三、七

源豊宗・今尾景祥編『景年——今尾景年画集——上・下』（芸艸堂、一九七六年）

図一〇

The British Museum Collection Research

<https://www.britishmuseum.org/research.aspx>

【注】

- ① 源豊宗「今尾景年の芸術」源豊宗・今尾景祥編『景年——今尾景年画集——』芸艸堂、一九七六年、三頁。
- ② 黒田讓『名家歴訪記 上篇』一九〇一年、六九頁。
- ③ 前掲論文 源（一九七六）、六頁。

【参考文献】

- 今井貞次郎編刊『景年墨華』一九一九年。
- 廣江美之助「今尾景年写生帖 植物草花解説」『景年寫生帖 草花四』京都書

【付記】

本研究は、JSPS 科研費（16J03034）による助成を受けたものである。

参考表 1.

『景年花鳥画譜』と『景年先生花鳥粉本』の画題対照表

『景年花鳥画譜』		《景年先生花鳥粉本》 画題右の数字は『花鳥画譜』における番号	
1	春 稚松、山白竹、紫鶺鴒	春	ヒガンザクラ、コガラ 13
2	白梅、黄鳥		李花、南緑鸚哥 16
3	重葉山茶、秦告了		西府海棠、黄雀 19
4	玉蘭、瑞紅鳥	夏	櫻子、白頭翁 36
5	紅梅、鶺鴒	春	長春花、ダンドク (二枚) 27
6	老松、仙鶴		紅梅、ヒタキ 5
7	金櫻子、シマカシラ		木蘭、黄頂小白鸚鵡 25
8	野薔薇、竹、花雞	夏	莞、菱、萍蓬草 セグロセキレイ (二枚) 49
9	櫻花、黄ヒタキ	春	桃花、拙老婆 24
10	紫雲英、紫花地丁、蒲公英 筆頭菜、嶋告天子、ピンズイ		連翹、エナガ 23
11	發芽牡丹、麻雀		ほけノ花、毛茛 マヒハ (二枚) 21
12	回青橙、鶺鴒虫喰		大麥、蠶豆、告天子 17
13	彼岸桜、コガラ	春	發芽牡丹、雀 (二枚) 11
14	梨花、シマコマ	春	シマヒバリ (二枚) 10
15	均亭李、緑鳩		山蘭、コツバタ 20
16	李花、南緑鸚哥		櫻花、キビタキ (二枚) 9
17	大麥、蠶豆、告天子		玉蘭、瑞紅鳥 4
18	蕪薑、黄鶺鴒		白梅、黄鳥 2
19	西府海棠、黄雀	夏	石榴花、錦帯鳥 63
20	山蘭、コツバメ	春	均亭李、緑鳩 15
21	ボケノ花、マヒハ		瑞香、ジユリン 29
22	躑躅、紫萁、雉子		稚松、山白竹、鶺鴒 1
23	連翹、エナガ		萱花、カチンツムギ 31
24	桃花、拙老婆		重葉山茶、秦告了 3
25	木蘭、黄頂小白鸚鵡		ダイダイ、ウグヒススムシクイ 12
26	紫藤、ヒガラ		野薔薇、山籬、花雞 8
27	長春花、ダンドク		梨花、シマコマ 14
28	重葉桃花、鶺鴒		紫藤、ヒガラ 26
29	瑞香、ジユリン		金櫻子、シマカシラ 7
30	長壽花、シマノジコ		長壽花、シマノジコ 30
31	萱花、カチン		ヤマブキ、コバン 59
32	夏 樅、鳴鳩	夏	葡萄、胡燕 48
33	牡丹、竹林鳥		小薊、セキレイ 40
34	三春柳、ゴイスギ		ハナセウブ、タマゲリ 35
35	ハナセウブ、タマゲリ		柳、越燕 (二枚) 38
36	櫻子、白頭翁	夏	枯樹、危巖、イヌワシ 62
37	山丹、クロツムギ	夏	牡丹、竹林鳥 (二枚) 33
38	柳、越燕		洩疏、シマヒタキ 55
39	燕子花、紅冠水鶏		三春柳、ゴイスギ 34
40	小薊、セキレイ		壺、樅、鳴鳩 32
41	杜鵑花、子規		雨久花、野茨菰、ヒクヒナ 51

42		右納、アカヒゲ		杜鵑花、子規	41
43		建蘭、カヤマジコ		右納、アカヒゲ	42
44		凌霄花、コゲラ		青梅、川雀	52
45		桐花、白頭鳥		蘆、鶯	54
46		荷花、白鷺		山丹、クロツムギ	37
47		佛手柑、ウソ		梔子花、萬年青、クロシト	57
48		葡萄、胡燕		瑪哩花、アイゼンカラ	58
49		莞、蔞、萍蓬草、セグロセキレイ		佛手柑、ウソ	47
50		大蓼、茅、鷓鴣		芍薬、相思鳥	60
51		雨久花、野苺菰、ヒクヒナ		凌霄花、コゲラ	44
52		青梅、川雀		桐花、白頭鳥	45
53		青葙、鶺鴒	秋	燈心草、白鶴子	64
54		蘆、鶯	冬	茗花、センニウ	107
55		溲疏、シマヒタキ	秋	槭樹、シジウカラ	68
56		ドヨウフジ、鳩		石榴、倒掛	66
57		梔子花、萬年青、クロシト		芒花、十二紅	101
58		瑪哩花、アイゼンカラ		穀樹、鶺鴒	69
59		棣棠花、コバン		鷓鴣、鴨跖草、カシラ	75
60		芍薬、相思鳥	夏	建蘭、カヤマジコ	43
61		百日紅、コルリ	秋	秋海棠、小ジユリン	73
62		枯樹、危巖、イヌワシ		蕎麥花、鶺鴒	76
63		石榴花、錦帯鳥		胡枝花、金翅	81
64	秋	燈心草、白鶴子		南五味子、十二黄	82
65		イヌタラヨウ、タカ		草棉花、カヤクグリ	85
66		石榴、倒掛		紫茉莉、キクイタダキ	84
67		蘆花、雁		扁柏、鷓鴣	83
68		槭樹、シジウカラ		黄蜀葵、鳳毛、コマドリ	92
69		穀樹、鶺鴒		西湖柳、サギ	94
70		鶺鴒		落霜紅、鬼蓋、ヤマガラ	95
71		錦荔枝、ベニマジコ		公孫樹、啄木鳥	96
72		葛花、クロメバチ		含羞草、青孝鳥	78
73		秋海棠、小ジユリン		向日葵、青菜	79
74		南瓜、クロヒハ		牽牛花、ホアカ	80
75		鷓鴣、鴨跖草、カシラ		クサフジ、ベニスズメ	77
76		蕎麥花、鶺鴒		栗、クロガラ	86
77		クサフジ、ベニスズメ		金桂、オホムシクヒ	87
78		含羞草、青孝鳥		白英、ミヤマホジロ	88
79		向日葵、青菜		櫛、カシドリ	89
80		牽牛花、ホアカ		柿、繡眼	90
81		胡枝花、金翅		拒霜、珠頂紅	91
82		南五味子、十二黄		葛花、クロメバチ	72
83		扁柏、鷓鴣		錦荔枝、ベニマジコ	71
84		紫茉莉、キクイタダキ		南瓜、クロヒハ	74
85		草棉花、カヤクグリ		王瓜、シマカシラ	98
86		栗、クロガラ		燈籠児、ホジロ	97
87		金桂、オホムシクヒ	冬	枯樹、鷓鴣	117
88		白英、ミヤマホジロ	秋	雁来黄、リウキウコマ	99
89		櫛、カシドリ	冬	蘆、長春花、剖葦	119

90		柿、繡眼	千金藤、赤ハラ	120
91		拒霜、珠頂紅	橘子、セツカ	121
92		黄蜀葵、鳳毛、コマドリ	老松、地錦、山啄木	122
93		大豆、伯勞、メグロ	茶梅、ブンキテウ	123
94		西湖柳、サギ	番牡丹、川原バシリ	109
95		落霜紅、鬼蓋、ヤマガラ	衰柳、ホシゴイ	126
96		公孫樹、啄木鳥	菰、カイツブリ	127
97		燈籠児、ホジロ	杉、青雛	106
98		王瓜、シマカシラ	桃葉衛矛、交喙	105
99		雁来黄、リウキウコマ	茅、川チドリ	112
100		菊花、沈香鳥	冬菊、紫金牛、鷓鴣	113
101		芒花、十二紅	水楊、ウスズミセキレイ	110
102	冬	赤松、紫練	槭樹、コムク	111
103		雪梅、ヲシドリ	玉ミヅキ、琉球ヒタキ	108
104		葉サクラ、イハツムギ	橐吾、嶋ホジロ	124
105		桃葉衛矛、交喙	蘿蔔、ツムギ	125
106		杉、青雛	榧、ハハテウ	118
107		茗花、センニウ	雪松、慈鳥（二枚）	133
108		玉ミヅキ、琉球ヒタキ	ハゼ、翡翠	116
109		番牡丹、川原バシリ	鷓鴣腸、カワセミ	129
110		水楊、ウスズミセキレイ	サカキ、関東ヲナガ	130
111		槭樹、コムク	カンボタン、雪ビタキ	131
112		茅、川チドリ	南天燭、白頭翁	132
113		冬菊、紫金牛、鷓鴣	枇杷花、八十カラ	134
114		カルカヤ、鷹、コガモ	赤松、紫練	102
115		蘿蔔、ツムギ	葉サクラ、イハツムギ	104
116		ハゼ、翡翠		
117		枯樹、鷗		
118		榧、ハハテウ		
119		蘆、長春花、剖葦		
120		千金藤、赤ハラ		
121		橘子、セツカ		
122		老松、地錦、山啄木		
123		茶梅、ブンキテウ		
124		橐吾、嶋ホジロ		
125		敗荷、鷓		
126		衰柳、ホシゴイ		
127		菰、カイツブリ		
128		雪蘆、群鳧		
129		鷓鴣腸、カワセミ		
130		サカキ、関東ヲナガ		
131		カンボタン、雪ビタキ		
132		南天燭、白頭翁		
133		雪松、慈鳥		
134		枇杷花、八十カラ		